

【熟議①「ボランティアの充実」に向けてできることは？】

多くの意見が活発に出された。その様子を会話形式で紹介すると…

【学校職員 A】 高等部の課題学習でサツマイモを育てたが、焼き芋は学校ではできないとのこと。どうにかやりたいのだが。

【委員 B】 即実行できます。空き地を使ってくれたらいいし、町内の機械を使って作ることもできる。

【学校職員 A】 お願いします！

【委員 B】 来年の春には、レンゲも咲くので、小学部さんに来てもらったらいい。

【委員 C】 子どもたちが校外に出る活動が復活してくれて嬉しく思っている。校外で友達と過ごせるのは、同じ場所でも家族と行くのでは全く違う楽しさがある。家族と一緒にだと甘えが出るが、友達と行くと「自分でする」という気持ちが出る。買い物をする等のたくさんの経験をしてほしい。その一方で、外に出ると人手が足りないのではないだろうか。そんな時こそ、見守りボランティアという形でお願いするのもいいのではないか。

【学校職員 D】 芸術鑑賞の機会をもちたいが、経費がかかり、無償で来てもらえる団体がほとんどない。

【委員 E】 昔は、岡山県にも無料貸し出しバスや運転ボランティアもあったが、今はないから出かけるのも大変ですね。福祉の立場上、日常的にボランティアとの関わりをもっているが、やはり地域の力を借りるのがよいのでは。地元の方との流れができれば、地域は応援してくれます。そのためにも、SNSやHP、チラシ等でボランティアの目的や意義も含めて、学校がしっかり発信することが大切ですね。人手が必要な時に短時間でもお願いできるといいですね。それによって、児童生徒の理解もすすむはずです。藤田は太鼓がありますよね。

【委員 C】 藤田伝三郎太鼓です。いろいろな所で演奏しているので、またつてを使って聞いてみます。あと、藤田は老人会がこども園の芋ほりを手伝っている。

【委員 F】 町内でもちつきもできますよ。もち米育てますか。

【学校職員 A】 もち米ですか。そうですね(笑)

【委員 C】 焼き芋にしてももちつきやとんど焼き等、自分が子供のころには当たり前でできていたことが、今は難しくなっていますね。

【学校職員 D】 学校としては、家でなかなかできないことを経験する機会を地域の方等に協力していただいでできる学習も大切にしていきたいです。